

(2) 平成14年度の業務実績

瑞浪超深地層研究所用地においては、平成14年5月から10月にかけて堆積岩中の地下水の様子などを調べるために、浅層ボーリング調査（4孔、掘削長100～200 m程度）を行いました。その後、掘削した4孔に地下水を長期観測するためのモニタリング装置を設置し、観測を開始しました。平成15年3月には、深層ボーリング調査（掘削長約1,350 m 予定、地表から約250 m は垂直、それ以深は水平からの傾斜角約80°）の掘削を開始しました。また、深層ボーリング調査の開始に先立ち、断層の存在など地下の大まかな地質構造を把握するため、地上で地質を観察する調査と人工的な地震波を発生させ地下で反射する地震波を測定する調査（物理探査）を行いました。

施設建設については、平成14年7月8日に瑞浪超深地層研究所の着工式を行い、平成15年度から予定している立坑坑口の基礎部の掘削工事に向けて、瑞浪超深地層研究所用地の構内整備を行いました。

正馬様用地においては、地下の状態をより詳しく把握するために、既存のボーリング孔を深く掘り下げ、それを利用した物理探査を行いました。また、既存の深層ボーリング孔を利用した地下水の長期観測や表層における水理観測を継続しました。



深層ボーリング調査



地震波を利用した物理探査



瑞浪超深地層研究所着工式

(3) 平成15年度の業務計画

瑞浪超深地層研究所用地においては、深層ボーリング調査や地下水の長期観測を引き続き行い、立坑掘削前の地下水の流れや岩盤にかかる力の状態の解析などを行います。

施設建設については、瑞浪超深地層研究所用地内の整備を引き続き行うとともに、立坑の浅い部分の掘削（地表から50 m程度を予定）を開始します。また、深い部分の掘削を行うために必要なやぐらなどの工場製作を行います。あわせて、用地周辺において、騒音や河川の水質、地下水の水位などに関する調査を実施します。

正馬様用地においては、おもに断層周辺の地下の状態を把握するために、既存の深層ボーリング孔で地下水の長期観測や表層における水理観測を継続します。